

新型コロナワクチン打つべきか。

私はほぼテレビを見る事が無いし、新聞も取っていないので、世間で何が騒がれているのかよくわからないのですが、それでもたまにテレビを見たら、コロナ、コロナ、コロナ…。

きっと、朝から晩までコロナ、コロナって言ってるんじゃないかと思います。あんなに朝から晩までそして毎日、毎日やってたら、間違いなくコロナ怖い、コロナ大変のコロナ脳に洗脳されてしまうのではないかと思います。

たしかに新型コロナウイルスは存在しておりますし、重症者や死亡されてしまう方もいるので、簡単に考えることは出来ないですし、予防対策も必要だとは思いますが。でも今の状況を見てみると、実態のない恐怖を与えられ続け、国民一丸となってパニックに陥っているように見えます。

新型コロナウイルス (Covid-19) がどんなウイルスなのかと言う事をまずは正しく学んからでないと、感染対策などの対処も正しく出来ないというのが当たり前じゃないかと思います。

それは、マスクや衝立の効果やPCR検査の事についても同じ事が言えると思います。

アメリカのマスク禁止のサウスダコタ州とマスク義務のノースダコタ州で感染者数の増減が全く同じで、マスクもロックダウンも意味がない事があき

らかになり、むしろ逆効果だったという結果になりました。

その後、ノースダコタ州では、この科学的結果を受けて、公的場所でもマスク義務化を禁止する法案を下院で可決、上院へ提出しています。

スウェーデンでは、学校内でのマスク着用を禁止、裁判官と職員のマスクも禁止しました。

いまだにどこに行ってもマスク、マスク、マスクの日本、子ども達にまでマスクを強要している日本は正しい感染対策となっているのでしょうか。

また、PCR検査の重要性を強く訴えている人も多いようですが、そもそもPCR検査とはどんな検査をするための検査機なのか。現在日本で行われているPCR検査がどのような方法で行われているのか。その検査料のお金の流れがどうなっているのか？

ポルトガルの裁判所では「PCRは信用できず隔離は違法」という判決を下しています。

何より、新型コロナの存在まで怪しいとも言われて、実際に日本の厚生省もコロナの存在証明を提示することは出来ていません。

大手メディアの偏った報道、フェイスブック、ユーチューブなどの大手ソーシャルメディアの情報検閲からの情報の削除、情報者の削除など。

世界的な情報統制が当たり前の世の中になって来ています。

先日、当会のフェイスブックページで名古屋の総合医療クリニック「クリニック徳」の院長であり、ウィスコンシン医科大学教授である高橋徳院長が、新型コロナウイルスとPCR検査、コロナワクチンなどの真実について話されているユーチューブ番組をアップしたところ、ユーチューブの利用規範に違反しているとの事で削除されてしまいました。エビデンスに基づいた知識を紹介していたにも関わらず、真実が陰謀論やデマと言われ削除されてしまうのが現実です。しかし、偏った情報からは事実は見えて来ません。

そこで、今回は、その削除された高橋徳院長の動画を元にして、日本にも入って来て、取り合いになっているという新型コロナワクチンについて、ご紹介させていただきます。

通常のワクチンの作り方

現在世界で作られている全てのワクチンは、ウイルスを鶏卵に接種して、ウイルスを卵の中で増殖、培養されたワクチンを弱毒化、不活化させた生ワクチン、不活化ワクチンとして使用する鶏卵法という方法で作られています。

新型コロナワクチンの作り方

今回の新型コロナワクチンは、従来の鶏卵法はなく、全く新しい核酸(mRNA、RNA、DNA)」と呼ばれるもので、これは自分の細胞を疑似ウイルスにして、自分の細胞に攻撃させると

いう**遺伝子組み換えワクチン**です。

東大など日本で開発している新型コロナワクチンも、ファイザー、アストラゼネカなど世界各国で開発している新型コロナワクチンも全て遺伝子ワクチンです。

通常、新しいワクチンの開発には7～10年、早くても3～4年は掛かると言われていますが、遺伝子ワクチンは、わずか1年で開発されました。動物実験もなくいきなり治験が開始され、日本でも接種が始まってしまいました。人に使用された前例もなく、副作用も何が起こるか未知です。

遺伝子組み換え食品もそうですが、安全性の確認をするためには、本来なら2世代、3世代と世代交代も含めた長期間の検証が必要なのにも関わらず、一般の食品添加物と同様の短期間の検査で安全として輸入が認められてしまっています。遺伝子を組み替えた食品、例えば遺伝子組み換えのトマトは、見た目はトマトであっても従来のトマトとは全く違う遺伝子を持った新しい生命体という事が言えます。

今回の遺伝子組み換えワクチンも全く同じと考えています。

これから子供を作らない人の場合、最悪の副作用は死亡で終わりますが、これから子供を作る人は、何かの影響が子供に出してしまうと元に戻ることはありません。未来永劫続いてしまいます。

組み替えられた遺伝子を元に戻すことは不可能です。

だからこそ、短期的な副反応のみならず5年後、10年後、30年後の副反応も考えて遺伝子ワクチンの接種を考える必要があります。

もう、子供作ることはない私ですが、それでも考えるまでもなく絶対に接種しません。

何より新型コロナは変異しやすいために効果のあるワクチンを作ること自体がほぼ不可能であると言われていています。

ワクチンが逆効果の場合も

東大先端研がん代謝 PT・児玉龍彦教授と立教大特任教授・金子勝教授は、コロナワクチンが「抗体依存性感染増強 (ADE)」を起こし感染を促進させ、重症化してしまうリスクがあると指摘しています。

ワクチンを接種することで抗体ができ、ウイルスを中和することで毒性を弱めるのがワクチンの役割です。でもそのウイルスが変異した場合は、抗体が毒性を中和することが出来ず免疫が暴走してしまうサイトカインストーム(ワクチンが感染を促進させ重症化)が起きると言うのです。

コロナワクチンで不妊

コロナワクチンを開発しているファイザーの元社長兼最高化学責任者であるマイク・イエードンは、コロナワクチンは SARS-Cov ウイル

スの表面タンパクに対する抗体を作る事を意図しているが、この抗体が実際に作用するかは不明です。

しかし、仮にこれが実際に作用したとすると、この抗体は胎盤の形成を阻害することになるので、ワクチンを接種した女性は事実上、不妊になるということです。(現在、彼のツイッターアカウントは凍結された)

コロナワクチンは生物兵器？

さらに、米国海軍で生物兵器の研究をしていたリー・メリット博士は、コロナワクチンを摂取すると、メッセンジャーRNA が人体に注入され、遺伝子コードが書き換えられてしまうため、コロナワクチンは**危険な生物兵器**であると警鐘を鳴らしています。また、その mRNA が何にプログラムされているかはわかりませんし、医師でもそのデータにアクセスすることはできないと言います。プログラムの書き換えをするにも関わらずそのデータが公開されていないのです。知っているのはプロジェクトのトップの人間だけです。と話されています。あまりに不自然で怖すぎる思うのは私だけでしょうか？

そのリー・メリット博士は以下のようにアドバイスしています。

「今すぐパンデミックから抜け出したいのなら、テレビの電源を切り、マスクを外し、ビジネスを再開し、そして人生を生きることです。」

コロナワクチンを打ちたくない人は？

厚生労働省が市民（ママエンジェル）の声を聞いて本気で動いてくれました！

1. ワクチンは予診票で「打ちたくない」にチェックすれば接種しなくても大丈夫です！
2. ワクチンの全ての成分や技術を明記してくれました！
3. 厚生労働省にコールセンターを作ってくれました。今後、47都道府県 1800 市町村にも全て完備されます。
4. 妊婦の方は十分な臨床データがないので、医者と相談して頂ければ大丈夫となりました。
5. 医療従事者の方のワクチン接種には本人の同意が必要であり強制されない。職場や周囲の方に接種を強制したり動員に勧めたいしない。
6. 一般の方も職場や周りの方にも接種を強制したり、接種を受けていない人に差別的な扱いをしない。
7. 15歳以下は接種の対象ではない。

※下記は厚生省のホームページより抜粋（医療従事者向け）

医療従事者等の方へ

新型コロナワクチン接種のお知らせ

接種費用
無料
(全額公費)

医療従事者等^{*}の方から 新型コロナワクチンの接種が始まります。

^{*}新型コロナウイルス感染症患者（新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む）に直接医療を提供する施設の医療従事者等、
新型コロナウイルス感染症患者の搬送に携わる救急隊員等及び患者と接する業務を行う保健所職員等を含む。

- ご自身が該当するかどうかや、接種方法・接種場所等については、ご自身の所属機関にてご確認ください。
- ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要であり、強制されるものではありません。職場や周囲の方などに接種を強制したり、強引に勧めたりすることがないようにしてください。



接種にあたっての注意事項

- 以下にあてはまる方も基本的には接種は可能ですが、かかりつけ医等とご相談の上、ワクチンを受けるかどうかお考えください。
・現在、何かの病気で治療中の方 ・授乳中の方 ・新型コロナウイルスに感染したことがある方
- 妊娠中の方につきましては、現時点では十分な臨床試験データがありませんので、接種については主治医等とご相談ください。

接種当日の注意事項

- 接種前にご自宅で体温を測定し、明らかな発熱がある場合や体調が悪い場合などは、接種を控え、接種を受ける予定の施設にご連絡ください。
- 真を出しやすい服装でお越しください。

イベルメクチンがコロナの救世主に



2015年
ノーベル医学
生理学賞を受
賞した北里大
学特別荣誉教
授である大村

智博士が発見した寄生虫病の特効薬「イベルメクチン」が、新型コロナウイルスの治療と予防に効いているという医学報告が世界各地から多数あがっていて、コロナパンデミックを終息させる切り札になるかも知れないという見方が出て来ています。

イベルメクチンが新型コロナウイルスの治療に使われ始めるきっかけとなったのは、オーストラリア・モナシュ大学のキリ・M・グスタフ教授による「**イベルメクチンが新型コロナウイルスの細胞レベルでの増殖を阻害する**」という内容の論文からでした。

その後、アメリカのハーバード大学医学部の研究チームからも「イベルメクチンによって著しく感染者の致死率が下がった」とするデータが示されました。

さらにアメリカを中心とした「新型コロナ救命治療最前線同盟」の医師団は昨年春から世界中で使用されているイベルメクチンの臨床試験のデータを公表しています。今回はその成果の部分だけですが、ご紹介させていただきます。

1. 患者の回復を早め軽傷から中等症の患者の悪化を防ぐ。
2. 入院患者の回復を早め、集中治療室（ICU）入室と死亡を回避させる。
3. 重症患者の死亡率を低下させる。
4. イベルメクチンが広く使用されている地域では、コロナ感染者の致死率が著しく低い。

さらに、過去40年間にわたって抗寄生虫病として処方されたイベルメクチンの副作用はきわめてまれであり、あっても軽度であったことなども強調しています。

新型コロナウイルスを99.98%も抑制！

また、オーストラリアの研究グループの試験では、イベルメクチンを使ってから24時間後には新型コロナウイルスのRNAが93%減少し、48時間後には99.98%減少したことを観察しました。また、イベルメクチンによる毒性作用は見られなかったと言います。

現在では、アメリカ、アルゼンチン、イスラエル、イラク、インド、バングラデシュ、フランス、ブラジル、メキシコなどの国々の30か所以上の医療機関で、正式に医師主導の治験・臨床研究が行われています。

もともとは日本で作られた薬です。是非、日本でもコロナの治療と予防薬としてイベルメクチンの研究、使用を進めるべきと考えます。

5-アミノレブリン酸(5-ALA)

5-アミノレブリン酸 (5-ALA) とは

36億年前、地球上に生命が誕生した時に生まれ「生命の根源物質」と言われて生命が生きていくのに欠かせない天然のアミノ酸です。

生命を維持する為に必要なエネルギーを作り出すのに必須である5-ALAは、植物や動物などあらゆる生物の体内で産生されています。

このため、5-ALAは多くの食品に含まれていますが、特に発酵食品に多く含まれていることが報告されています。

(※) 5-アミノレブリン酸 (5-ALA) : 体内のミトコンドリアで作られるアミノ酸。ヘムやシクロクロムと呼ばれるエネルギー生産に関与する機能分子の原料とな

る重要な物質ですが、加齢に伴い生産性が低下することが知られています。

5-ALAは、納豆、バナナ、黒酢、甘酒、日本酒、焼酎粕や赤ワイン、高麗人参等の食品にも多く含まれています。この度、長崎大学とネオファーマジャパンの共同研究から**5-ALAがCOVID-19の原因ウイルス**であるSARS-CoV-2の感染を培養細胞において**強力に抑制**することが示されました。

この抗ウイルス効果は、明らかな細胞毒性無しに、ヒト細胞と非ヒト細胞の両方で認められました。

そのため、5-ALAはCOVID-19に対する抗ウイルス薬の候補としてさらなる研究を進める価値があると考えられます。

コロナワクチンの事だけについて書こうと思っておりましたが、書き始めたら止まらなくなってしまいコロナ特集みたくなくなりました。

いまだにコロナに翻弄されてしまっているというのも腹正しいですが、その根っこにあるのが、コロナウイルスではなく偏った報道というのが非常に腹立たしく思っています。そして、その偏った報道はコロナの事ばかりじゃないように思いますし、実は何も真実を知らされていないようにも思えてしまいます。

私達がコロナで右往左往している間に、世界では大きな変革が起き始めているように思えます。どんな世界になったとしても私達が食べて行かなければならないと言う事実は変わりませんし、全てにおいて最も大切なことは日常の中にこそあります。何を食べて、どんな行動をするのか。毎日を楽しく過ごしているのか。

自分や家族の命の輝きは、楽しい日常から生まれます。

今日も我が家のボードテーブルには沢山の小鳥達がやって来て、命の輝きを見せてくれています。今回、コロナについて色々とお書き頂きましたが、今後のコロナ対策についての一助となれば幸いです。(川原 智道)